

●	工 事 概 要
---	---------

項 目	特 記 事 項			
▶ 1. 工事種目	名 称	新 設	改 修	摘 要
	空気調和設備工事	○ 一式	○ 一式	
	暖 房 設 備 工 事	○ 一式	○ 一式	
	冷 房 設 備 工 事	○ 一式	○ 一式	
	換 気 設 備 工 事	○ 一式	○ 一式	
	排 煙 設 備 工 事	○ 一式	○ 一式	
	給 油 設 備 工 事	○ 一式	○ 一式	
	自動制御設備工事	○ 一式	○ 一式	
	屋外給水設備工事	○ 一式	○ 一式	
	屋内給水設備工事	○ 一式	● 一式	
	屋外排水設備工事	○ 一式	○ 一式	
	屋内排水設備工事	○ 一式	● 一式	
	屋内給湯設備工事	○ 一式	○ 一式	
	衛生器具設備工事	○ 一式	● 一式	
	消 火 設 備 工 事	○ 一式	○ 一式	
	屋外ガス設備工事	○ 一式	○ 一式	
	屋内ガス設備工事	○ 一式	○ 一式	
	撤 去 工 事	○ 一式	● 一式	
		○ 一式	○ 一式	
		○ 一式	○ 一式	
※ 種目は●印を付したものを適用する				
※ 空気調和設備工事とは、空調機等を設置し暖冷房を行う工事をいう				
※ 暖房設備工事とは、直暖や個別暖房のみの工事をいう				
※ 冷房設備工事とは、個別冷房のみの工事をいう				

--	--

●	機械設備共通事項
---	----------

項 目	特 記 事 項													
▶ 1. 配管 1) 配管材料														
	施 工 区 分													
管 種	冷 温 水	冷 却 水	蒸 気	温 水	給 油	冷 媒	給 水	給 湯	排 水	通 気	消 火	ガ ス	雨 水	
○ 配管用炭素鋼鋼管(白)														
○ " (黒)														
○ 圧力配管用炭素鋼鋼管(黒)														
● 塩ビライニング鋼管(V A)							●			●				
○ " (V B)														
○ 排水用塩ビライニング鋼管														
○ 耐熱性塩ビライニング鋼管														
○ 外面被覆鋼管														
○ ナイロンコーティング鋼管														
○ ステンレス鋼管														
○ 鋼管(M)														
○ 保温付被覆鋼管														
○ 被覆鋼管														
● ビニル管(V P)										●	●			
○ " (V U)														
○ 樹脂管														
○ 耐火二層管														
○ ポリエチレン管														
○ 合成樹脂製可とう電線管														
○ 鉛管														
○ コンクリート管														
○ 鋳鉄管														
○										↑				
○										ブ				
○										ロ				
○										ア				
○										エ				
○										ア				
○										配				
○										管				
○														

2) 弁類

3) 試験

※ 該当項目に●印をつける。

2列書きになっている部分は左側屋外配管、右側屋内配管とする

水道直圧及び高置タンクまでは10kとし、他は各種配管の水圧検査圧力値を超える最高許容圧力を有するバルブとする

配管途中若しくは隠ぺい、埋戻し前又は配管完了後の塗装又は被覆施工前に行う

圧力値、保持時間は、標準仕様書第2編 2.9.2から2.9.5による

試験終了後、報告書を工事監督員に提出すること

- 転造ねじ加工 (蒸気還水管)

- | 種 類 | | 冷
温
水 | 冷
却
水 | 温
水 | 給
水 | 給
湯 | 消
火 | 備 考 |
|-----|---------|-------------|-------------|--------|--------|--------|--------|-----|
| ○ | プレス | | | | | | | |
| ○ | 拡管式 | | | | | | | |
| ○ | 溶接 | | | | | | | |
| ○ | ハウジング継手 | | | | | | | |

- 防食処理 ○ 土中
○ ペトロラタム系防食テープ ()
○ ブチルゴム系絶縁テープ ()
○ コンクリート内
○ プラスチックテープ ()
地中埋設標・埋設表示テープ・屋外配管埋設深さ

	地中埋設標		埋設表示テープ		屋外配管埋設深さ		
	○	要	○	要	車両道路	道路以外	凍結深度
給水配管	○	要	○	要	GL- m以上	GL- m以上	GL- m以上
	○	不要	○	不要			
ガス配管	○	要	○	要	GL-0.6m以上	GL-0.3m以上	
	○	不要	○	不要			
油配管	○	要	○	要	GL-0.6m以上	GL-0.3m以上	
	○	不要	○	不要			

7) 溶接部の検査

- 目視検査 ○ 非破壊検査 (溶接部の種類 :)
(検査の種類 :)
(配管種別 :)
(使用圧力 :)
(抜き取り率 :)

- 詳細は標準仕様書の当該事項による
- 冷温水管 ● 給水管 (○ 1次側 ● 2次側)
- 冷却水管 ○ 給湯管 ○ 受水タンク ○ 高置タンク
- 貯湯タンク ○ 給湯用膨張タンク
- 高周波洗浄もしくは同等以上の方法による
- 飲料水管の場合は、端末において遊離残留塩素が0.2mg/L以上検出され
まで消毒を行う

► 2. 保温

標準仕様書第2編3.1.4及び5のうち保温材及び外装材は次による断熱材、特定フロン、代替フロン等、オゾン層を破壊する物質を含有していないこと

- | | | | |
|-------------|-------------|------|---|
| 保温材 | ● グラスウール | (給水 |) |
| | ○ ロックウール | (|) |
| | ポリスチレンフォーム | (|) |
| 外装材 ｲ) 屋内露出 | | | |
| | ● 合成樹脂製カバー | (給水 |) |
| | ○ アルミガラスクロス | (|) |
| | ○ その他 () | (|) |

2) ダクト

- ロ) 機械室・書庫・倉庫
 ● アルミガラスクロス (給水)
 ○ その他 () ()
 ハ) 天井内・パイプシャフト内及び空隙壁中
 ○ アルミガラスクロス ()
 ○ その他 () ()
 ニ) 床下・暗渠内
 ○ 着色アルミガラスクロス ()
 ○ アルマット ()
 ● 保温なし (排水)
 ○ その他 (防水麻布=既設給水)

外気取入用ダクト及び排気用ダクトは保温を行う

- 保温材 ○ グラスウール ()
 ○ ロックウール ()
 ○ ポリスチレンフォーム ()
 ○ その他 ()

- 外装材 1) 屋内露出
 ○ 合成樹脂製カバー ○ カラー亜鉛鉄板
 ○ 溶融アルミニウム—亜鉛鉄板 ○ ステンレス鋼板
 ○ アルミガラスクロス ○ その他 ()
 ロ) 機械室・書庫・倉庫
 ○ アルミガラスクロス ○ カラー亜鉛鉄板
 ○ 溶融アルミニウム—亜鉛鉄板 ○ ステンレス鋼板
 ○ 合成樹脂製カバー ○ その他 ()
 ハ) 天井内・パイプシャフト内及び空隙壁中
 ○ アルミガラスクロス
 ○ その他 ()
 ニ) 外気取入用ダクト及び排気用ダクト
 ○ アルミガラスクロス
 ○ その他 ()

- 範囲 1) 外気取入用ダクト ・ 全て
 ロ) 排気用ダクト ○ 全て
 ○ その他 (外壁より1.5m以内)

3) 機器類

- 冷温水ヘッダー ○ 冷水ヘッダー ○ 冷温水タンク
 ○ 冷水タンク ○ 温水タンク ○ 蒸気ヘッダー
 ○ 温水ヘッダー ○ 熱交換器 ○ 還水タンク
 ○ 膨張タンク

- 保温材 ○ グラスウール ○ ロックウール
 ○ その他 ()

- 外装材 ○ カラー亜鉛鉄板 ○ 溶融アルミニウム—亜鉛鉄板
 ○ ステンレス鋼板 ○ その他 ()

4) 冷媒被覆銅管

外 径	6.35	9.52	12.7	～	50.8
被覆厚					

5) 煙道
排気筒

- 保温材 ○ ロックウール ○ その他 ()
 外装材 ○ カラー亜鉛鉄板 ○ 溶融アルミニウム—亜鉛鉄板
 ○ ステンレス鋼板 ○ その他 ()

6) 消音内貼り

施工方法は標準仕様書の当該事項による
 施工個所は図示したダクト及びチャンバー類とする

	<p>使用材料 ○ グラスウール ○ その他 ()</p> <p>厚さ ○ 25mm ○ 50mm</p> <p>消音内貼チャンバーの寸法は外法寸法とする</p> <p>ラス押え ○ 有 () ○ 無</p> <p>イ. 屋内露出は、室内環境対応・配慮形塗料又は水性系塗料の合成樹脂調合ペイントとする。 但し煙道、煙突は耐熱塗装とする。</p> <p>ロ. 裸管 ○ 合成樹脂調合ペイント ○ アルミニウムペイント ・蒸気管 機械室内は、アルミニウムペイント 居室及び隠ぺいは、さび止めペイント</p> <p>ハ. 支持金物及び架台類</p> <p>ニ. ダクト ○ 合成樹脂調合ペイント ○ アルミニウムペイント</p> <p>ホ. その他 * 合成樹脂調合ペイント ○ アルミニウムペイント ○ 調合ペイント</p>
▷ 3. 塗装	
▷ 4. ダクト及びダクト付属品	
1) ダクト	<p>方式 ○ 低圧 ○ 高圧1 ○ 高圧2 ○ その他 ()</p> <p>工法 ○ アングルフランジ () ○ コーナーボルト () (○ 共板フランジ ○ スライドオンフランジ)</p> <p>種別 ○ 鉄板 () ○ スパイラルダクト () ○ 硬質塩化ビニル管 (VU) () ○ 矩形 (アングルダクト工法) () ○ その他 ()</p> <p>イ. 外壁に面するガラリに直接取付けるチャンバー、ホッパーには排水を設ける</p> <p>ロ. シーリングディフューザーには下記の接続ボックスを設ける イ) ネック径200φ以下 : 400×400×250H ロ) " 200φをこえるもの : 500×500×300H</p> <p>ハ. 線状吹出口には、下記の接続ボックスを設ける イ) BL-S、BL-D : 200×(長さ+100)×300H ロ) BL-T、BL-K : 250×(長さ+100)×300H</p> <p>ニ. 天井付制気口には、特記なき場合(制気口寸法+100)×250Hの接続ボックスを設ける</p>
2) チャンバー等	
3) 防雪フード	<p>イ. 材質 ステンレス鋼板製 ○ SUS430 ○ SUS304 ○ その他 ()</p> <p>ロ. 板厚 () mm</p>
4) 排気フード	<p>イ. 幕板 ○ 本工事 ステンレス鋼板製 ○ SUS430 ○ SUS304 ○ 別途工事 ○ () mm</p>
5) セルフード	<p>○ 丸形フード ○ 防風形フード ○ その他 ()</p> <p>材質 ○ ステンレス製 ○ アルミニウム製 ○ その他 ()</p>
6) 風量測定口	<p>取付箇所 1. 特記した風量調整ダンパーの上流又は下流 2. 送排風機、空調機に近接した風道の部分 3. 外気取入風道の部分 4. その他指定部分</p>

▷ 5. 制気口 1) 吹出口・吸込口	材質 ○ 樹脂製() ○ 鋼板製 ○ アルミニウム材製 ○ その他()
▶ 6. 貫通部の処理 1) 穴埋補修 2) 防火区画の処理	穴埋補修は無収縮モルタル又はロックウール保温材で補修する なお、ロックウール保温材の場合は脱落防止の措置を施す イ. 不燃材料の配管で貫通する場合は、その隙間をモルタル又はロックウール保温材で埋める ロ. 不燃材料以外の配管で貫通する場合は、建築基準法令に適合する工法とする ハ. スパンドレイルについてセルフドは抵触しない事 イ. インサート金物は、吊りボルトに対し、適正なサイズのものを選定する ロ. 断熱材使用箇所におけるインサート金物は、断熱インサート金物とする ハ. 吊り用ボルトは、ピット内及び床下は被覆全ねじ又は丸鋼とする イ. 標準仕様書（第2編 第2章の2.2.27）による ロ. 外壁の地中部分で水密を要する部分のスリーブ ※つば付き鋼管スリーブ ○非加硫ブチルゴム系止水材（使用部位： ）
▷ 9. はつり及び穴あけ （改修工事等）	既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の穴あけは、原則として、ダイヤモンドカッターによる 口径は、原則として管の外径（保温されるものにあつては保温材の厚さを含む）より20mm程度大きなものとする
▶ 10. 耐震措置	「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（日本建築センター発行）に基づき、耐震施工を行う ● 一般の施設 ○ 特定の施設 ○ 甲類 ● 乙類 (1) 局部震度法による建築設備機器（水槽類を除く）の設計用標準水平震度（Ks）

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階	2.0	1.5	1.5	1.0
屋上及び塔屋	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(1.5)
中間階	1.5 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)
1階及び地下階	1.0 (1.0)	0.6 (1.0)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)

(注) () 内の数値は防振支持機器の場合に適用する

(2) 局部震度法による水槽類の設計用標準水平震度（Ks）

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要水槽	一般水槽	重要水槽	一般水槽
上層階	2.0	1.5	1.5	1.0
屋上及び塔屋				
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6
1階及び地下階	1.5	1.0	1.0	0.6

▶ 11. 総合試運転調整等

重要機器は、次のいずれかに該当するものをいう。また、一般機器とは重要機器以外をいう

イ. 災害応急対策活動に必要な施設等において、施設目的に応じた活動を行うために必要な設備機器

ロ. 危険物を貯蔵又は使用する施設において、危険物による被害を防止するための設備機器

ハ. 避難、消火等の防災機能を果たす設備機器

ニ. 火災、水害、避難の障害等の二次災害を引き起こす恐れのある設備機器

ホ. その他これらに類する機器

重要水槽とは重要機器として扱う水槽類、一般水槽とは一般機器として扱う水槽類を示す

また、水槽類にはオイルタンク等を含む

- 風量調整 ● 水量調整 ○ 室内外空気の温度
○ 室内外空気の湿度 ○ 室内気流及びじんあいの測定
○ 騒音の測定 ○ 飲料水の水質の測定

総合試運転調整完了後、機器等の運転状態の記録及び系統ごとに各測定結果をまとめた測定報告書を工事監督員に提出する

測定報告書には、測定器名、測定日時及び測定者名を記入し、測定点を示した図面を添付する

▷ 12. 仮設工事

1) 工事用水

構内既存の施設 ○ 利用できる (* 有償 ○ 無償)
* 利用できない

2) 工事用電力

構内既存の施設 ○ 利用できる (* 有償 ○ 無償)
* 利用できない

3) 足場

4) 交通誘導警備員

別契約の関係請負者の定置する足場、栈橋の類は、無償で利用できる
建設機械及び車両等の出入りの際には、出入口に交通誘導警備員を配置し、一般通行者及び一般車両の安全を図ること

なお、交通誘導警備員の区分、配置位置及び設置日数は、次による

区分： ○ 交通誘導警備員A ○ 交通誘導警備員B

位置：図面による

警備員詰所：(○ 設ける ○ 設けない)

表 工事現場の位置と交通誘導警備員区分の考え方

工事現場の出入り口を設ける道路（路線）	交通誘導警備員区分
市街地（DID）内の路線	交通誘導警備員A
北海道（各方面）公安委員会告示による認定路線	
上記以外の路線	交通誘導警備員B

5) 指定仮設

* なし ○ 本工事（仮設計画図による）

▷ 13. 土工事

1) 管周囲の保護

* 山砂の類 ○ 良質土 ○ その他

2) 埋戻し土

* 掘削土の良質土 ○ 山砂の類

3) 建設発生土等の処理

場外搬出 (約 km 捨て場所)

(捨て場所住所 :)

(管 理 者 :)

捨て土均し (○ 有り ○ 無し)

項 目	特 記 事 項
▶ 1. 衛生器具及び付属機器	図内器具表による